



地震・津波タイムラインの作成

南海トラフ地震・津波被害から犠牲者ゼロを目指し、令和6年度には井田地区で地震・津波タイムラインを作成。



蓄光式の避難誘導看板

夜間でも迷わず避難できるように蓄光式の避難誘導灯・避難看板の設置を進めていきます。



道の駅紀宝町ウミガメ公園

駐車場が拡張されるとともに、新たな指定管理者のもと運営が行われています。



自転車イベント

当地域での自転車愛好家の裾野を広げるため、熊野市から新宮市までを自転車で巡るイベントが開催されました。

を一層推進してまいります。
町が実施する住まいや仕事、結婚、妊娠、子育て等、切れ目のない支援の情報や町の魅力を発信し、移住を考えられている方が紀宝町に興味を持っていただき、「住んでみたい」「住んでよかった」と実感していただける施策の充実に努めてまいります。

観光振興

観光振興につきましては、昨年7月に熊野古道が世界遺産登録20周年を迎えており、県や近隣自治体、関係機関と協働しながら本地域の重要な資源や魅力を広く発信したところ、本地域に注目が集まっている状況であります。
令和7年度につきましては、も引き続き、地域の事業者などと連携を図る中、本地域ならではの自然や文化を実際に体験できる機会を創出し、訪れる方々に紀宝町の魅力を深く体感していただくことにより地域との強い結びつきを育ててまいります。

自転車観光の取り組みとしては、一般社団法人東紀州地域振興公社と東紀州地域の各市町が連携を図り、

令和3年5月にナショナルサイクルルートとして指定された「太平洋岸自転車道」の魅力を発信するとともに、自転車利用者に快適な施設や休憩所を提供することで、訪れやすい観光地づくりを推進してまいります。

町の情報発信につきましては、引き続きウミガメ公園や飛雪の滝キャンプ場を中心に、地域の事業者とともに町の魅力発信に取り組んでまいります。また、ふるさとマイレージ企画を通じて「紀宝町ふるさと応援団」のみなさまに魅力発信を行っていただくことで、関係人口の増加にも努めながら情報発信の強化を図ってまいります。

昨年12月には一

般国道42号「新宮紀宝道路」が開通し、地域

内での移動がスムーズになり、観光誘客への可能性も大きく膨らんでおり、また、令和7年4月から2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」が開催されますことから、日本全国・世界各国からの観光客が関西に



集中することが想定されます。
万博の開催や高規格幹線道路の整備効果も見据えながら、地域の事業者が持つアイデアや地域特有の資源を活かすことで、紀宝町の観光地としての魅力を一層高め、地域全体の活性化へとつなげてまいります。

総合住民情報システム

総合住民情報システムの標準化・共通化につきましては、令和3年に「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律」が施行され、地方公共

団体における事務処理内容の共通性や町民の利便性の向上などを図る観点から、標準化対象の20業務に

関する情報システムは、令和7年度末までに「標準準拠システム」に移行するとともに、国が整備するガバメントクラウド上での利用に努めることとされており、これらを整備することにより、将来的に地方公共

防災アプリの導入

さらに、町民のみなさまへの情報提供を充実させるため、防災アプリを導入し、ハザードマップや避難場所の位置に加え、リアルタイムの雨量・水位データを確認できるとともに多言語にも対応できる防災情報共有システムの改修を図ってまいります。

自主防災組織の運営

「人の命が一番」を基本に、災害における被災者ゼロを目指し、町民各々が「自分の命は自分で守る」という防災意識のさらなる醸成を図るとともに、地域コミュニティの防災力強化が図られるよう、自助・共助による自主防災組織の運営について協同して進めてまいります。

タイムライン防災

タイムライン防災の取り組みにつきましては、台風等風水害に備えたタイムラインでは、これまで約40回にわたりタイムラインを運用してきたことにより、町民のみなさまの意識・行動にも大きく変化が感じられ、早めの準備や早めの避難行動につながってお

り、防災意識の向上に大きく寄与したと実感しているところであります。

風水害地区タイムラインにつきましては、町内で浅里地区をはじめとした5地区11自主防災組織において運用いただいております。これに伴う事前行動による避難者が増加傾向にあります。

令和7年度から、井田地区におきましても風水害地区タイムラインの構築を進めるとともに、引き続き、未導入地区の策定を推進し、タイムライン防災のさらなる充実を図ってまいります。

また、南海トラフ地震・津波被害から犠牲者ゼロを目指し、鶴殿地区・井田地区におきまして、地区のみなさまとともにワークショップを開催し、鶴殿地区では令和5年11月、井田地区では昨年10月に完成いたしました「家族と私の命を守る地震・津波タイムライン」に基づく訓練を重ね、さらなる浸透と充実を推進するとともに、浸水が想定される成川地区におきましても地震・津波タイムラインの構築を図ってまいります。

さらに、南海トラフ臨時情報

の発表に伴う町としての必

団体における人的負担等の軽減を図り、地方公共団体の職員が町民への直接的なサービス提供や地域の実情を踏まえた企画立案業務などに注力できるようにするとともに、オンライン申請等を全国に普及させるためのデジタル化の基盤を構築することが可能とされており、

本町におきましても、現在、熊野市と実施している自治体クラウドから、令和8年1月にガバメントクラウド上における標準準拠システムへの移行を進めていく予定としており、本業務の推進にあたりましては、安全性の高いシステムの構築、および住民サービスに支障が生じないよう円滑な移行に向け、取り組んでまいります。

生成AI

生成AIにつきましては、現在、世界的に様々な業種での活用が期待されており、三重県を含む県内の複数の市町においても導入が進められているところでもあります。

本町におきましても、生成AIの本格導入に向けて取り扱いルールの制定や利用環境

要な対応や行動項目を整理するため、国や県が策定するガイドライン等も参考に、「紀宝町南海トラフ臨時情報タイムライン」の構築を進めてまいります。

今後、あらゆる災害から町民の命を守ることを最優先に、各自治会や自主防災組織のみなさまと連携を図るとともに、自助・共助・公助の災害対策をより強化し、災害に強い安全・安心なまちづくりに努めてまいります。

避難行動要支援者名簿システム構築導入事業

「避難行動要支援者名簿システム構築導入事業」につきましては、システムを構築することにより、住民基本台帳情報と介護保険情報等の福祉情報から、迅速に要支援者対象要件に基づく避難行動要支援者名簿の作成に取り組んでまいります。

また、この要支援者名簿を活用し、要支援者の状況や支援者の情報の把握に努め、災害時に特に支援が必要とされる方々への対応が円滑化するよう、個別避難計画の策定を進めてまいります。

次に、町民のみなさまの「い